

南区内の小学校では、地域住民の方々と協力して様々な福祉的取り組みが行われており、ふれあいの場が設けられています。今回の『南区福祉教育だより』では、今年度各小学校で行われた取り組みをご紹介します。

札幌市立定山溪小学校

(齊藤 隆義 校長 児童数 43名)

平成28年10月28日(金)の午後、本校体育館で「定山溪地区合同音楽会」を行いました。定山溪保育所の園児・定山溪小学校児童・定山溪中学校生徒、さらに保護者、地域の方々が参加する中、子どもたちが発表を行い、最後に全員で「ふるさと」を合唱しました。歌を通して気持ちがつながり、会場全体が温かい雰囲気になりました。



札幌市立石山小学校

(萬 智子 校長 児童数 176名)

本校では、高学年の総合的な学習の時間に「ともに生きる」という学習活動があります。その中の6年生の活動では「宏楽苑」の御高齢の方たちとの交流活動が設定されています。年間5回ほど「宏楽苑」に出かけて、ゲームやお部屋訪問を行い、交流を深めています。最初のうちは、どのように接したらよいのか不安な表情の児童が多いのですが、「宏楽苑」のみなさんの御協力や一緒に活動した経験などを通して、3月にはお互いにすっかりなかよくなって交流を終えています。

札幌市立澄川小学校

(木津 和彦 校長 児童数 486名)

本校では毎年、2年生の児童が澄川中央福寿会の方を学校に御招待し、交流会を開催しています。今年度は9月29日と10月26日の2日間実施しました。

福寿会から10名ほどの方が来てくださり、子どもたちに様々な昔の遊びの方法を教えてくださいました。竹馬や三角馬は、子どもたちが怖がらずに乗ることができるように、手取り足取り教えてくださいました。お手玉を上手に投げられるよう丁寧に教えてくださいました。笑顔いっぱいの楽しい交流会になりました。





札幌市立澄川南小学校

(綱淵 友也 校長 児童数334名)

本校4年生は、総合的な学習の時間の「お年寄りに学ぼう」で地域の敬老会である朝緑会の皆様と11月21日に交流しました。

当日は、お客様からのお話から始まり、昔遊びを一緒にしたり、授業で調べたことを伝えたり、質問したり…と楽しい時間を過ごすことができました。更に、緑ヶ丘会館で行われる例会に後日参加しました。地域の方々との交流の中で、地域に見守られている安心感をもつことができました。

札幌市立石山東小学校

(田中 修 校長 児童数 111名)

本校の教育課程には、地域とのかかわりを大切に活動が多く位置付けられています。特に北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校とは年間を通して全校で交流しています。運動会前に、「お互いの運動会でがんばろう」のエール交換や一緒に親子ソーランを踊っています。学習発表会前には、1・2年生がお互いの発表内容を交流しています。また、本校児童がふれあいコーナーを企画運営する「ふれあい子どもまつり」にいしやま中央幼稚園の園児と共に招待し、参加していただいています。

他には、アートヒルズや南老人福祉センター、ぴーぶるといった老人福祉施設も訪問し、交流を行っています。

このような地域とのかかわりの中で、本校児童は6年間を通してやさしさ、思いやりといった他者意識を培っています。



札幌市立真駒内桜山小学校

(追分 久子 校長 児童数 701名)

本校では、4年生が総合的な学習の一つとして、「やさしさ再発見」という学習に取り組んでいます。今年度はまず、車いすやアイマスク、重りなどの体験道具を使って、体の不自由な方や高齢者の体験学習をしました。次に、「バリアフリーの町づくり」に対する自分たちのプランについて、地下鉄駅前街頭インタビューをし、感想や意見を聞きました。最後は、インタビューを基に修正を加えたプランを、南区緑苑大学(高齢者教室)の皆さんとの交流会で発表し、お褒めの言葉をいただきました。



毎月3日は

見守り・訪問の日